

第130回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和7年4月～6月期

2025年6月の日銀短観調査によると、大企業の業況判断D Iは製造業が13（前回比+1）、非製造業が34（同▲1）と推移している。

しかし、トラック運送業界においては、一般貨物は輸送数量、運賃・料金の水準は悪化傾向に転じ、燃料価格の高止まりや物価高による輸送原価の上昇分を十分転嫁できない状態が継続、営業利益・経常利益の悪化を反映し、景況感は前回▲18.7から▲20.0へ1.3ポイント悪化した。

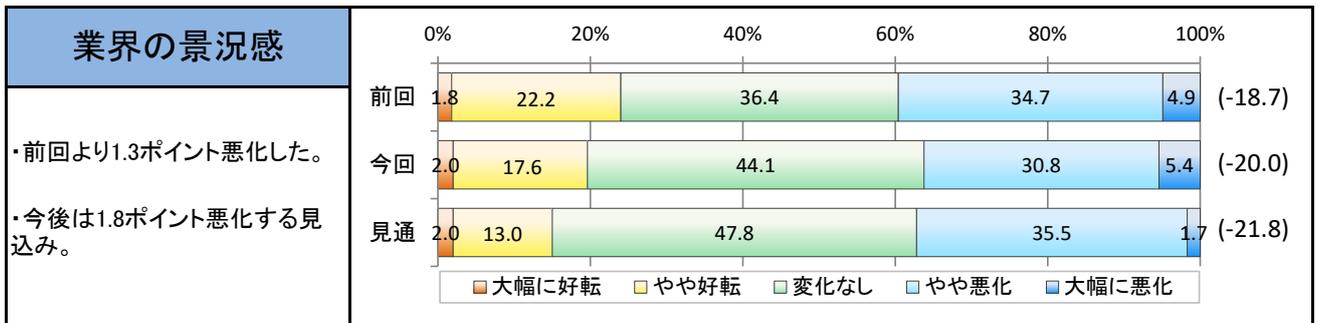
なお、来期の見通しは、米国関税政策がもたらす事業環境の不透明化や人材不足、物価上昇等を反映し、景況感は今回▲20.0から▲21.8へ1.8ポイント悪化する見込みである。

令和7年8月18日

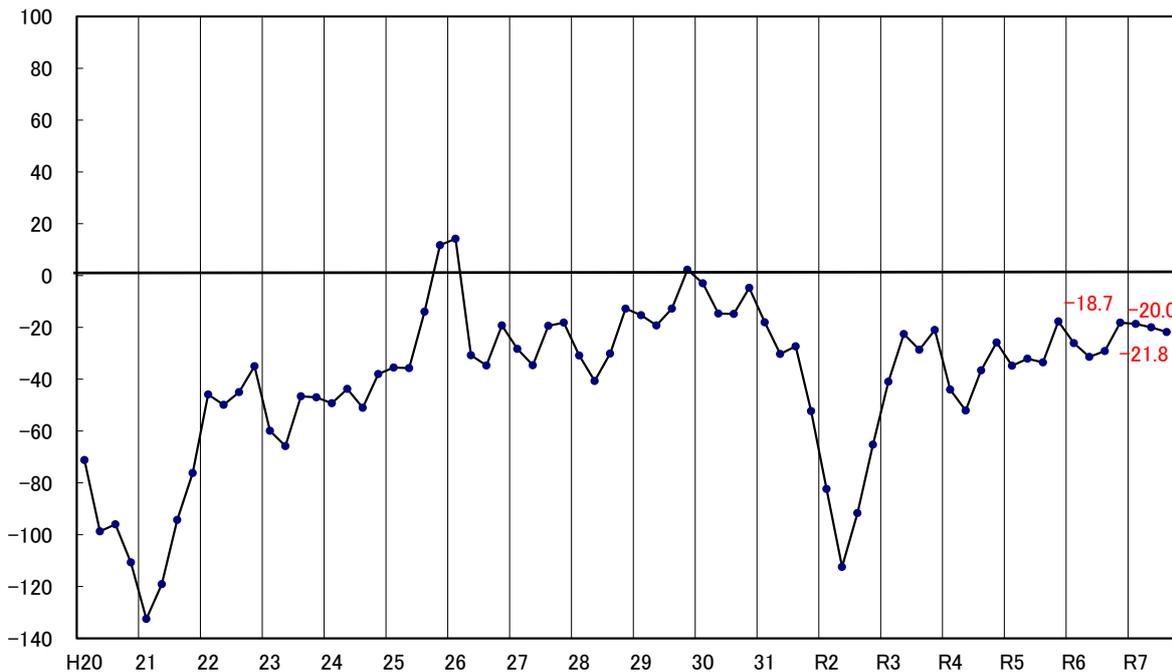
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感: 今回(令和7年4月～6月期)の概況と今後の見通し

今回の状況	・輸送量は減少傾向に転じ、燃料価格の高止まりや物価高による輸送原価の上昇分を十分転嫁できず、営業利益・経常利益が悪化傾向にあることから、景況感は前回▲18.7から▲20.0へ1.3ポイント悪化した。
今後の見通し	・来期の見通しは、米国関税政策がもたらす事業環境の不透明化や人材不足、物価上昇等を反映し、景況感は今回▲20.0から▲21.8へ1.8ポイント悪化する見込みである。



トラック運送業界の景況感(業況判断DI)の推移(H20以降)



(注1) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R7.1月～3月期)の状況、中段は今回(R7.4月～6月期)の状況、下段は今後(R7.7月～9月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) 各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。

$$A(\text{設問Aの回答者数}) = a1+a2+a3+a4+a5(\text{設問Aの選択肢1～5の回答数の和})$$

$$\text{指標} = \{(+2 \times a1) + (+1 \times a2) + (0 \times a3) + (-1 \times a4) + (-2 \times a5)\} \div A \times 100$$

2 共通の概況①:今回(令和7年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実働率は▲2.7(前回▲1.8)と0.9ポイント悪化、実車率は▲3.1(前回▲2.7)と0.4ポイント悪化し、輸送効率は悪化した。 ・運転者の採用動向は▲29.4(前回▲27.6)と1.8ポイント低下、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は92.5(前回91.1)と1.4ポイント上昇し、労働力の不足感は一段と高くなった。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・実働率は▲3.1(今回▲2.7)と0.4ポイント悪化、実車率は▲2.9(今回▲3.1)と0.2ポイント改善する見込みである。 ・運転者の採用動向は▲30.2(今回▲29.4)と0.8ポイント低下し、運転者の雇用動向は95.7(今回92.5)と3.2ポイント上昇し、労働力の不足感は一段と強くなる見込みである。

実働率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 16.4 66.2 16.4 0.9 (-1.8)</p> <p>今回 0.4 16.1 64.7 18.0 0.8 (-2.7)</p> <p>見通 0.8 13.7 68.2 16.1 1.2 (-3.1)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下</p>
<p>・前回より0.9ポイント悪化した。</p> <p>・今後は0.4ポイント悪化する見込み。</p>	
実車率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 15.1 70.7 10.7 3.6 (-2.7)</p> <p>今回 0.4 15.4 68.9 11.4 3.9 (-3.1)</p> <p>見通 0.7 13.3 71.7 11.1 3.2 (-2.9)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下</p>
<p>・前回より0.4ポイント悪化した。</p> <p>・今後は0.2ポイント改善する見込み。</p>	
運転者の採用動向	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 10.7 57.8 24.9 6.7 (-27.6)</p> <p>今回 0.4 10.6 56.9 23.5 8.6 (-29.4)</p> <p>見通 0.8 10.6 56.1 22.7 9.8 (-30.2)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
<p>・前回より1.8ポイント低下した。</p> <p>・今後は0.8ポイント低下する見込み。</p>	
運転者の雇用動向 (労働力の不足感)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 26.7 41.3 28.9 2.7 (91.1)</p> <p>今回 28.3 40.6 27.2 3.1 (92.5)</p> <p>見通 28.7 42.5 25.2 2.8 (95.7)</p> <p>■ 不足 ■ やや不足 ■ 適当 ■ やや過剰 ■ 過剰</p>
<p>・前回より1.4ポイント上昇した(不足感が強くなった)。</p> <p>・今後は3.2ポイント上昇する見込み。</p>	

(注4) 雇用状況については、上段は前回前回(R7.1月～3月期)の状況、中段は今回(R7.4月～6月期)の状況、下段は今後(R7.7月～9月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②: 今回(令和7年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定外労働時間は▲40.9(前回▲37.3)と3.6ポイント減少、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲14.2(前回▲14.2)と横ばいである。 ・ 経常損益は、運送原価アップに対して十分に価格転嫁できていない状況を反映し、▲24.8(前回▲20.4)と4.4ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定外労働時間は▲28.0(今回▲40.9)と12.9ポイント増加し、貨物の再委託は▲15.7(今回▲14.2)と1.5ポイント減少の見込みである。 ・ 経常損益は、運送原価アップに対して十分に価格転嫁できていない状況を反映し、▲29.5(前回▲24.8)と4.7ポイント悪化する見込みである。

所定外労働時間	<p style="text-align: center;">0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p> 前回 0.4 9.8 47.6 36.4 5.8 (-37.3) 今回 0.4 9.4 45.7 37.8 6.7 (-40.9) 見通し 2.8 7.1 54.3 31.1 4.7 (-28.0) </p> <p style="text-align: center;"> ■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少 </p>
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	<p style="text-align: center;">0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p> 前回 0.9 11.6 65.8 16.0 5.8 (-14.2) 今回 1.2 11.4 65.0 16.9 5.5 (-14.2) 見通し 3.5 7.5 66.9 13.8 8.3 (-15.7) </p> <p style="text-align: center;"> ■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少 </p>
経常損益	<p style="text-align: center;">0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p> 前回 0.9 24.4 34.2 34.2 6.2 (-20.4) 今回 0.8 22.8 33.5 36.6 6.3 (-24.8) 見通し 0.5 7.4 60.0 26.4 5.8 (-29.5) </p> <p style="text-align: center;"> ■ 大幅に好転 ■ やや好転 ■ 変化なし ■ やや悪化 ■ 大幅に悪化 </p>

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第130回調査は、令和7年7月1日に、モニターに対して調査開始、令和7年7月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
92	471	521

4 一般貨物:今回(令和7年4月~6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲9.9(前回1.9)と11.8ポイント悪化、運賃・料金の水準は21.0(前回34.3)と13.3ポイント悪化したことから、営業収入(売上高)は▲5.6(前回4.3)と9.9ポイント悪化した。 営業利益は運送原価上昇に対して価格転嫁が十分に進捗していないことから、▲35.6(前回▲23.7)と11.9ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲13.7(今回▲9.9)と3.8ポイント悪化、運賃・料金の水準は9.0(今回21.0)と12.0ポイント悪化することから、営業収入(売上高)は▲7.9(今回▲5.6)と▲2.3ポイント悪化する見込みである。 営業利益は、来期の事業環境の不透明感を反映し、▲38.9(今回▲35.6)と3.3ポイント悪化する見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.9 22.2 54.1 19.3 2.4 (1.9)</p> <p>今回 2.1 16.3 53.2 26.2 2.1 (-9.9)</p> <p>見通 1.3 13.3 58.4 24.5 2.6 (-13.7)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.5 46.9 42.0 7.7 2.9 (34.3)</p> <p>今回 0.4 36.1 51.5 8.2 3.9 (21.0)</p> <p>見通 25.8 60.5 10.7 3.0 (9.0)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.0 38.2 27.5 30.9 2.4 (4.3)</p> <p>今回 0.4 34.3 27.0 35.6 2.6 (-5.6)</p> <p>見通 0.5 28.8 36.3 31.2 3.3 (-7.9)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.0 25.6 33.8 28.0 11.6 (-23.7)</p> <p>今回 0.9 21.0 32.6 32.6 12.9 (-35.6)</p> <p>見通 0.4 13.1 43.7 32.8 10.0 (-38.9)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>

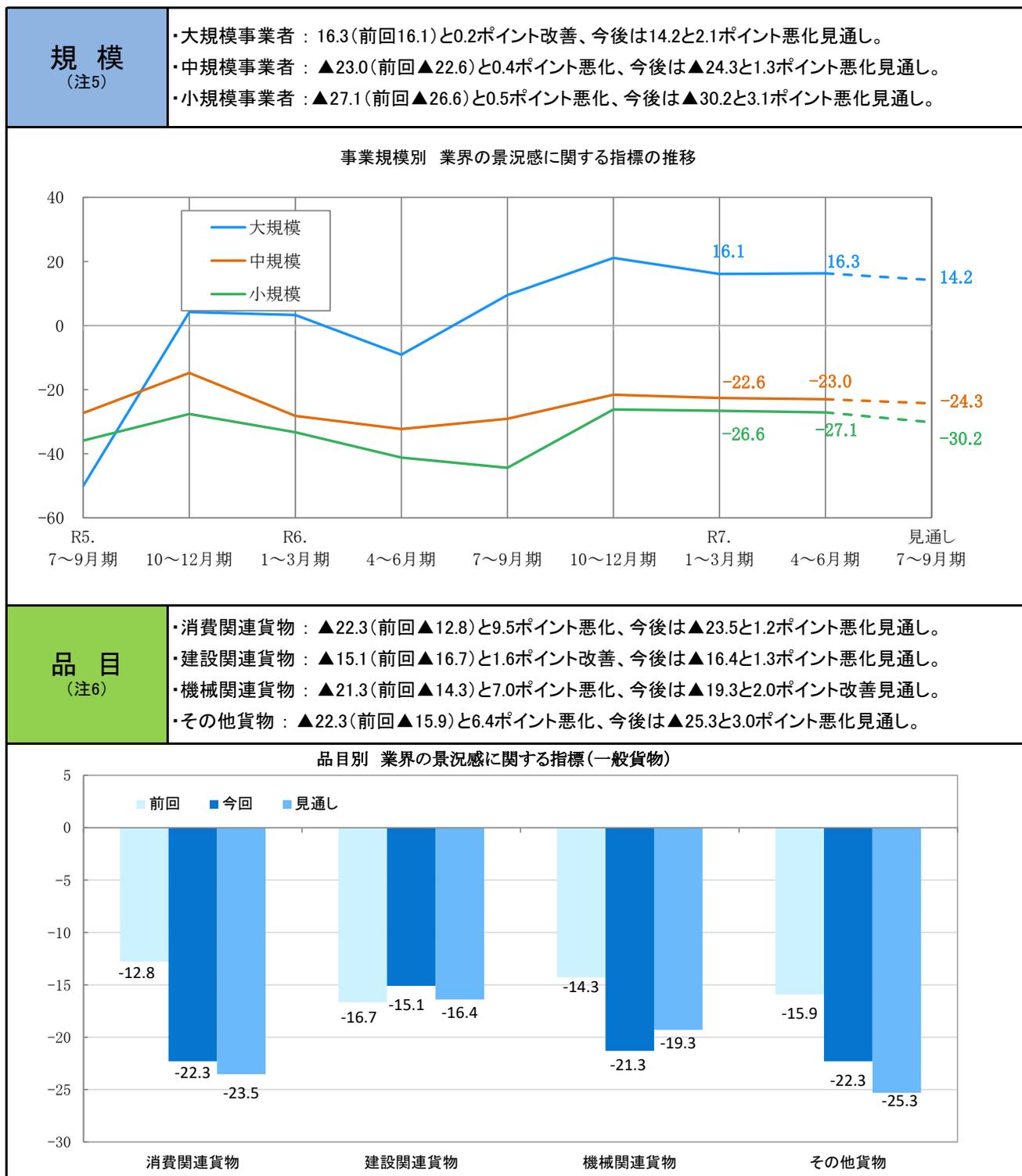
5 特積貨物:今回(令和7年4月～6月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、輸送数量は10.7(前回8.1)と2.6ポイント改善、運賃・料金の水準は25.3(前回40.5)と15.2ポイント悪化し、営業収入(売上高)は7.3(前回5.4)と1.9ポイント改善した。 営業利益は▲8.8(前回▲2.7)と6.1ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 運賃・料金の水準は18.2(今回25.3)と7.1ポイント悪化するものの、特積貨物では、輸送数量は16.4(今回10.7)と5.7ポイント改善、営業収入(売上高)は11.1(今回7.3)と3.8ポイント改善する見込みである。 営業利益は6.0(今回▲8.8)と14.8ポイント改善する見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 5.4 13.5 67.6 10.8 2.7 (8.1)</p> <p>今回 4.0 13.3 73.3 8.0 1.3 (10.7)</p> <p>見通し 2.7 20.5 68.5 6.8 1.4 (16.4)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
<p>・前回より2.6ポイント改善した。</p> <p>・今後は5.7ポイント改善する見込み。</p>	
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 54.1 32.4 13.5 (40.5)</p> <p>今回 1.3 34.7 53.3 9.3 1.3 (25.3)</p> <p>見通し 1.5 27.3 60.6 9.1 1.5 (18.2)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p>
<p>・前回より15.2ポイント悪化した。</p> <p>・今後は7.1ポイント悪化する見込み。</p>	
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 35.1 35.1 29.7 (5.4)</p> <p>今回 3.6 30.9 36.4 27.3 1.8 (7.3)</p> <p>見通し 1.9 25.9 55.6 14.8 1.9 (11.1)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
<p>・前回より1.9ポイント改善した。</p> <p>・今後は3.8ポイント改善する見込み。</p>	
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 2.7 45.9 0.0 48.6 2.7 (-2.7)</p> <p>今回 1.3 26.3 37.5 32.5 2.5 (-8.8)</p> <p>見通し 1.2 25.3 54.2 16.9 2.4 (6.0)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p>
<p>・前回より6.1ポイント悪化した。</p> <p>・今後は14.8ポイント改善する見込み。</p>	

※特積貨物の指数は、「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」の各指数を統合

6 事業者特性格の特徴①:規模別・品目別 業界の景況感



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

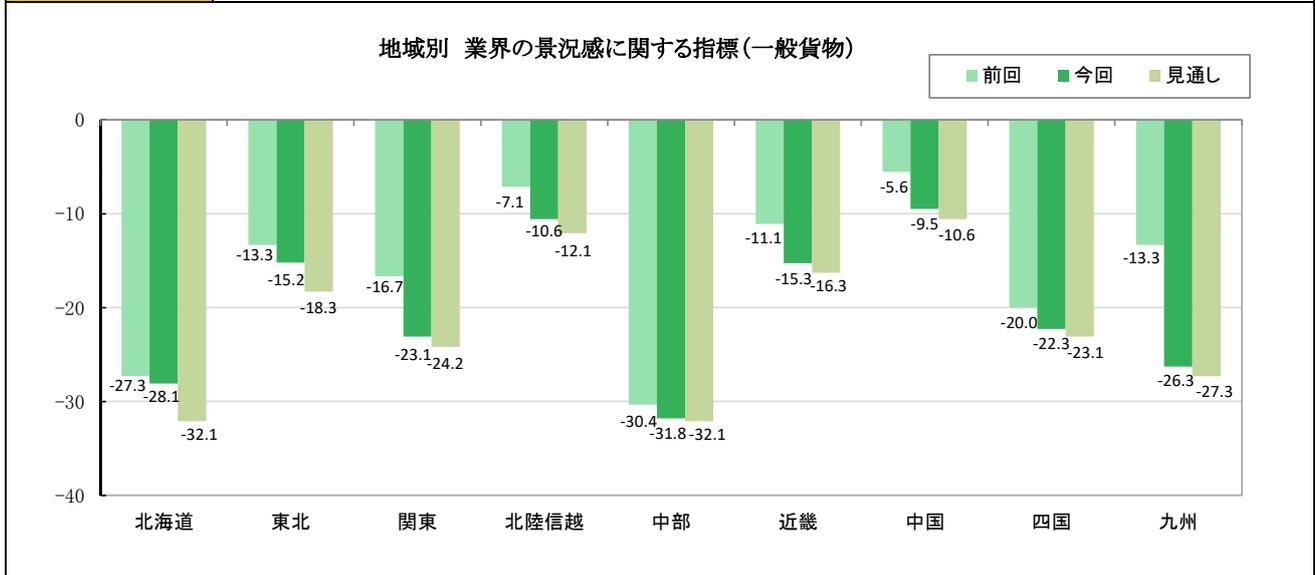
機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

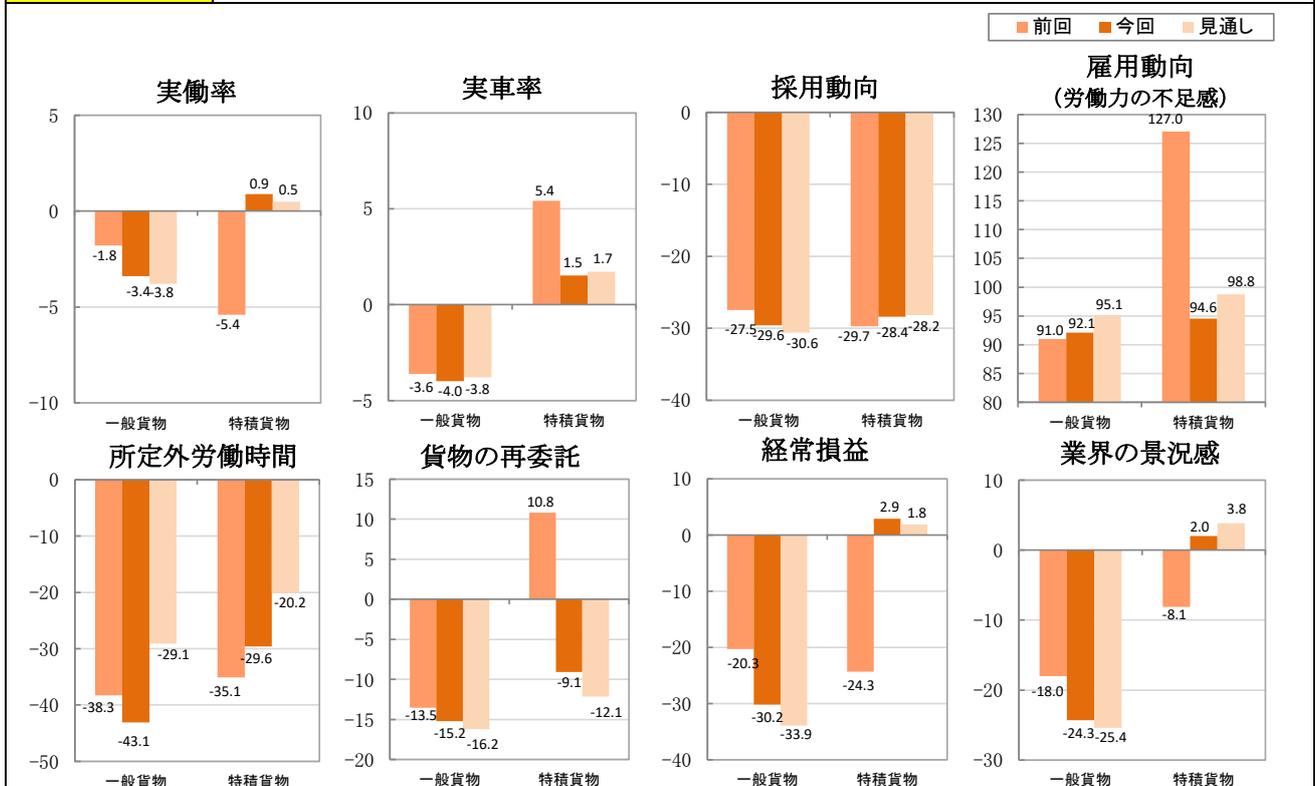
品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性別の特徴②: 地域別・事業形態別 業界の景況感等

地域 (注7)	<ul style="list-style-type: none"> 地域別の今期実績は、輸送数量の減少、原価上昇分の転嫁が十分でないことから、全て地域で悪化した。 来期の見通しは、物価高による輸送原価上昇及び米関税政策の動向による事業環境の不透明感を反映し、全ての地域で悪化する見込みである。
-------------------	---



事業形態別 (注8)	<ul style="list-style-type: none"> 採用動向は▲30前後で推移し、一般貨物で労働力の不足感が強まった。 経常損益は、一般貨物で悪化したが一、特積貨物は改善した。 業界の景況感については、一般貨物は経常損益の悪化を織り込み、▲24.3と前期比6.3ポイント悪化、特積貨物は2.0と前期比10.1ポイント改善した。来期見通しは一般貨物は悪化、特積貨物は改善する見込みである。
----------------------	---

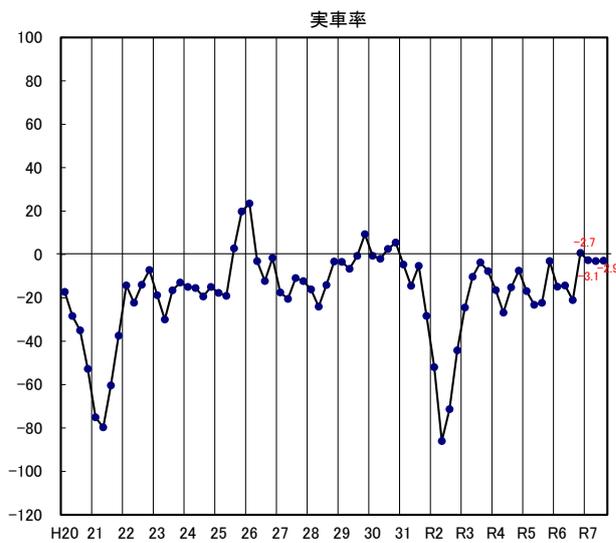
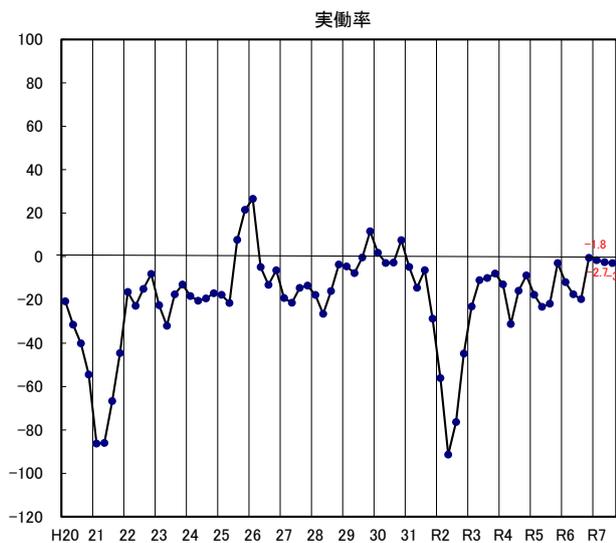


(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「特積貨物」である。

8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第2四半期見通し)

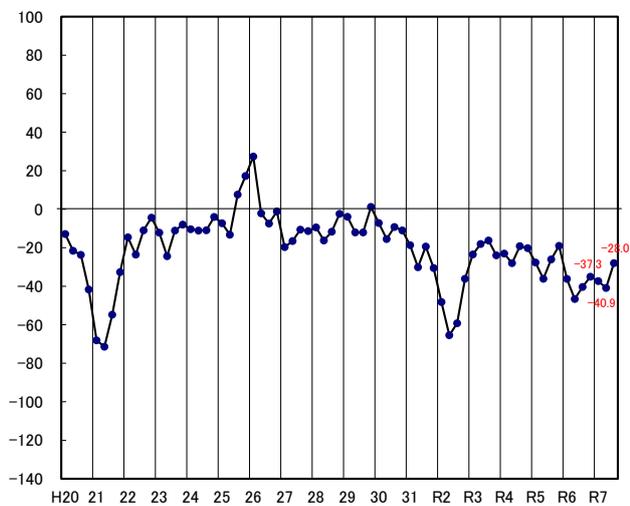
共通の概況①



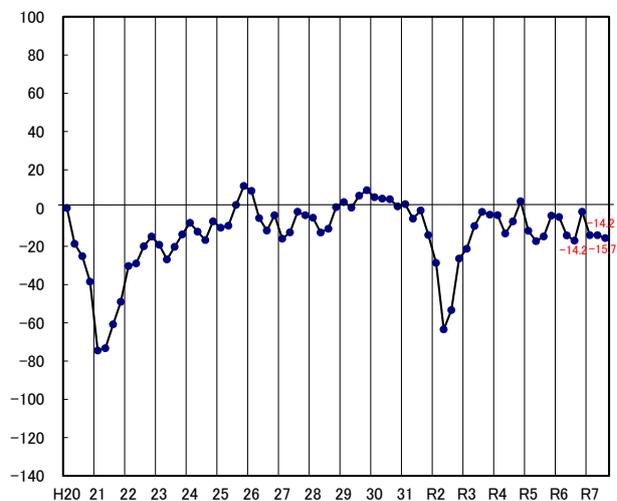
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第2四半期見通し)

共通の概況②

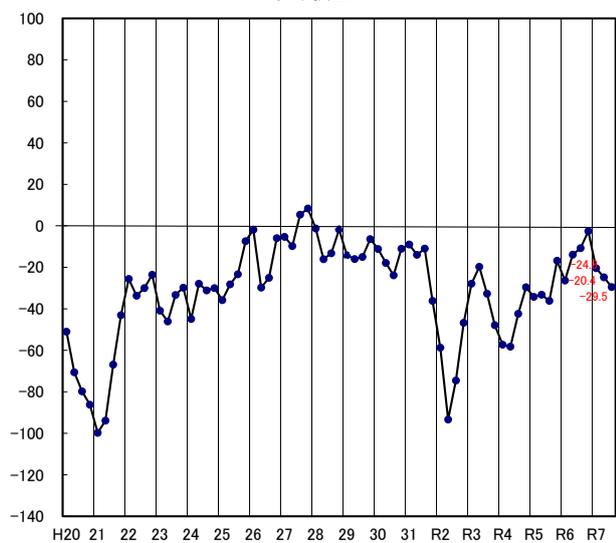
所定外労働時間



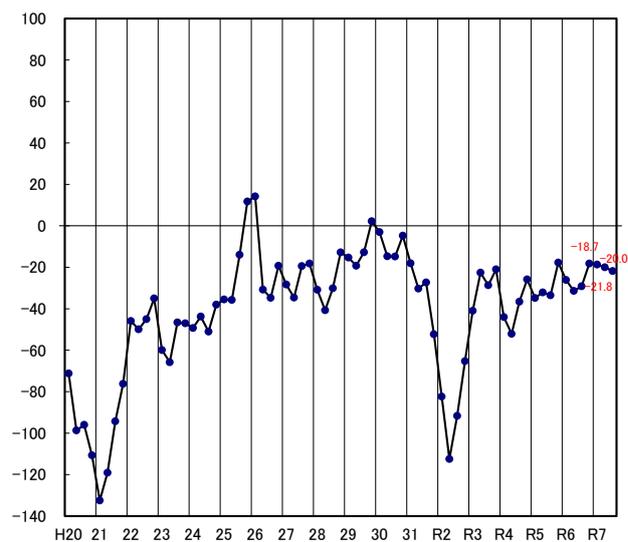
貨物の再委託



経常損益

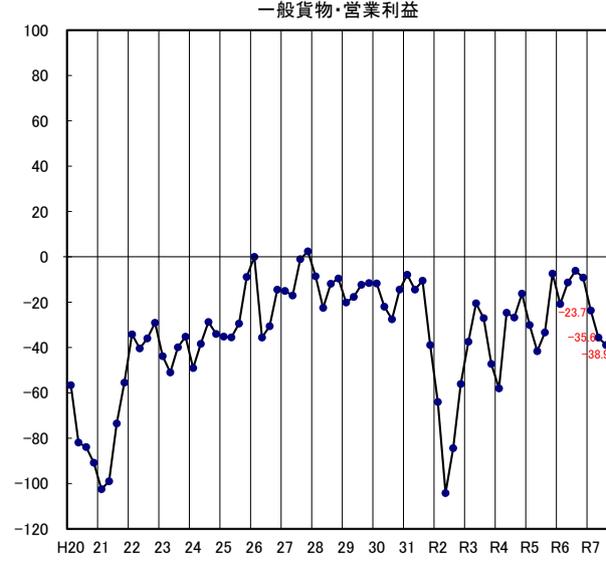


業界の景況感



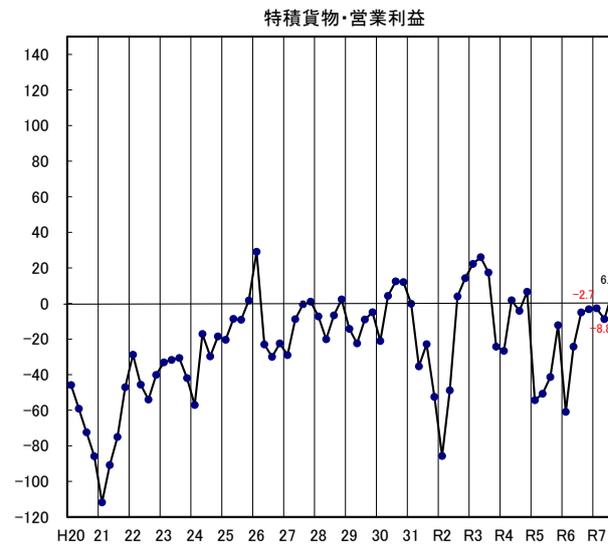
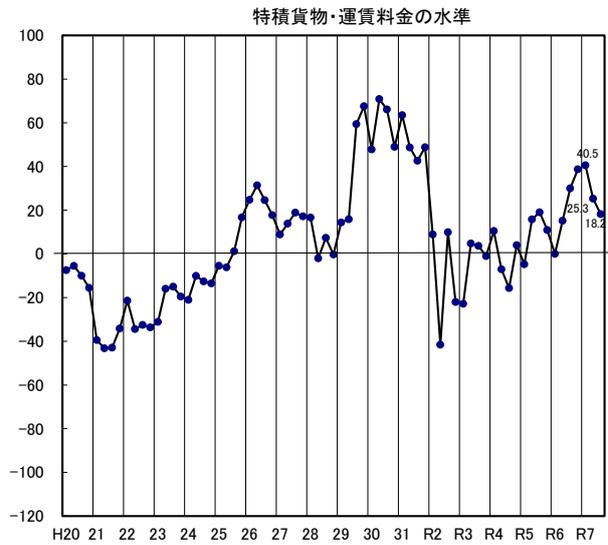
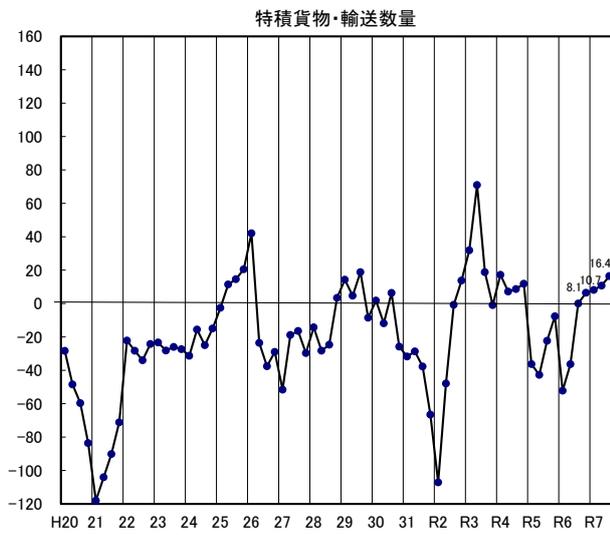
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第2四半期見通し)

一般貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第2四半期見通し)

特積貨物



※ 特積貨物として「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」を統合